

2003.9.30

会報第6号

わなぐら 和名倉百年の森



CHICHIBU OHTAKI WANAGURA TAIYOUJI NAKATSUGAWA

発行：百年の森づくりの会 〒336-0015 埼玉県さいたま市南区太田窪2034-1

TEL 048-885-6697 FAX 048-882-0245
メール: naitoh@saitama-j.or.jp

百年の森の総合学習センターについて

会長 内藤 勝久



ないとう かつひさ
百年の森づくりの会 会長
1940年さいたま市生まれ。
県立浦和高校、埼玉大学
経済学部卒。住友海上を
経て現在内藤保険サービ
ス株式会社社長。

この春、埼玉県より中津川区の万右衛門倉にある県有林の伐採跡地2.2ヘクタールが当会の活動のために提供されました。中津川区は大滝村の最奥にあり、群馬県、長野県、埼玉県が接する三国峠のすぐ手前にある人口67人の集落です。周囲はすべて森林ですが、落葉広葉樹が多く秋の紅葉の名所となっています。

私たちはこれだけのまとまった貴重な土地を総合的に活用するため、まず4月26日～27日、調査植林と森づくりの夢を語る夕べを開催しました。37名の参加を得て、0.8ヘクタールの土地にブナ、ミズナラ、カツラ、ケヤキ、コナラ、ヤマザクラなど630本の苗木を植栽し、その後、木の香溢れるふれあいの森学習室で、埼玉大学の佐々木寧教授(植物生態学)、貝山道博教授(公共経済学)、本間俊司助教(応用化学)および小室正人秩父農林振興センター所長(森林行政)の基調講演を聴講し、質疑に移りましたが、全員疲れも見せず討論に加わり、40年ぶりに大学の講義を聴くことができた。「日頃疑問に思っていたことが解消された」などの嬉しい感想をいただきました。夜は中津川のせせらぎを聞きながらのバーベキュー。講師を囲み、飲んで食べてそれぞれの夢を語り合いました。

その後植栽地の測量(7月18日)、埼玉県高校生物研究会の植生調査(7月30日～8月1日)、下草刈り(8月

26日)を行い、来年度以降の本格実施に向けた準備を完了することができました。植林の日にはカモシカ、測量の日にはまむしの出迎えを受け、植生調査ではナバナなどのレッドデータブックに記載される種や自然植生の樹木を多数発見するなど、百年の森の総合学習センターの環境は十分に備わっています。将来的にはここに30人程度収容できる小屋を立て、働き、遊び、学びの拠点とし、また登山ルートを開拓し登山の基地にもしたいと考えています。

来年植栽する1.4ヘクタールの土地は斜面も急で作業も大変ですが、多くの方々にご参加いただき、植林および下草刈りを無理なく実行し、夜はキャンプの火を囲み、夢を語り、英気を養い、水源の森はみんなで守る」というメッセージを全国に発信していきたいと思えます。

ところで、百年の森づくりの象徴ともいえる和名倉山中腹の仁田小屋復旧作業は、10月末の竣工に向け多くのボランティアのご支援により着々と進行していますが、木材の重量オーバーによるヘリコプター輸送の追加、プロの職人の投入などの理由により、当初予算を100万円程度超過する見通しとなりました。お金のある人はお金を、力のある人は力を」というボランティアの心を仁田小屋建設にお寄せくださいますようお願い申し上げます。

をめざして

目次	
百年の森の総合学習センターについて……………	1
会長 内藤勝久	
秩父の森の見方 (3) 神の住む森……………	4
埼玉大学工学部教授 佐々木 寧	
「森は海の恋人」畠山重篤氏の講演を聞いて……………	7
辻 秀幸	
建つや建たざるや……………	8
中川芳和	
大陽寺下草刈に参加して……………	10
狩野一子	
大滝村エコツーリズムの可能性……………	11
貝瀬朋子	
「緑のダム」をつくろう……………	12
緑のダム推進会議代表 荒川 正	
和名倉山登山……………	14
高岡正彦	
第12回百年の森づくりワーク報告……………	15

中津川植林地

昨年の大滝村大陽寺の植林につづき、群馬県と県境を接する大滝村中津川の県有林で4月26日・27日の両日にわたり、広葉樹630本の植林作業が行われました。スギの伐採跡地2.8ヘクタールに広葉樹を中心にした森づくり構想の手始めの作業になります。植林地はおよそ4つの特徴的な区域からなり、上部急斜面とその下部の緩斜面、ガレ場と沢沿いの区域からなり、今回は手前の比較的緩やかな地域にブナ・ミズナラ・ヤマザクラ・ケヤキなどを、小さな沢すじ域にカツラ・イロハモミジのポット苗を植林しました。植林面積は、7月の外周測量の実測で約0.8ヘクタールになります。7月30日から埼玉県生物研究会の高校の先生方による植生調査がおこなわれ、特徴的な4つの区域に5m四方と10m四方の方形調査区を設定し、今後の植生の変化を定期的に調査をすることとしています。ナベナなど絶滅のおそれがありレッドデータブックに記載された植物も多数見られています。調査集計は次号に掲載予定。8月26日には、植林地の下草刈りを苗木周りだけ刈り取る坪刈りで行いました。除伐や間伐といった山林作業においても、植林木よりもその地に適した優占種を大切に残して育てるような考え方がとられています。坪刈りは、自然植生への配慮とともに幼齢の苗の保護にとっても適切だといわれています。

植林、測量、調査、下草刈りと初年度の作業を一応終えることができましたが、学ぶことの非常に多い活動でもあります。ほとんど分らないことばかりの魅力にみちた世界でもあります。スギの伐採後に百種類を超える植物が一斉に芽吹いていたり、カモシカを身近に見ることができたり、自然は尽きることはない姿を見せてくれます。植林とその後の育林という長い年月を森と山に関わりつけ、観察と注意深い作業が経験を養いさらに自然に向き合うことによつて、豊かな森が生まれるとしたら、森林の作業も楽しいものです。私たちが昨年から植え始めた木々は目に見えて大きくなっているわけではありませんが、数年後には若い林として一望できるようになります。そのときにはまた新たな作業で木々と向き合うこととなりますが、山や森を私たちが見捨てないかぎり、私たちも本当に豊かなものを森から与えられるのではないのでしょうか。講演に来てくださった畠山氏は、私たちはただ山に木を植えているのではなく、私たちの心の中に木を植えるんだと言っています。百年の森づくりの会では、多くの方々に森林に接していただきたいと考えています。

植林一日目、春の浅い山奥での植林作業を終えて、森づくりの夢を語るタベ」と題してシンポジウムを開催しました。どのような森づくりをめざすのか、森のグランドデザインをテーマに貴重



ナベナ



新しい森づくり



な講演をいただきました。
 佐々木先生からは、植林の大義について、
 貝山先生からは、自然環境の経済評価に
 ついてその評価方法の検討をふまえて講
 演をいただきました。また、本間先生から
 は、「リサイクルは本当に必要か？」と題し
 て環境問題の本質を鋭くつけた提起があ
 りました。秩父農林振興センターの小室
 所長からは、「1万7千ヘクタールに及ぶ中
 津川地区の人口97人のうち50歳以上
 の人が81人、林業従事者は3名、山を守

ることの厳しい現実を指摘されるとともに、日本初
 の林学者本多静六博士に由来する県有林の特徴
 について適切な説明をいただきました。森を育て
 守っていくことの様ではない多くの問題に参加者
 一同が深く啓発されるものとなりました。
 中津川植林は、来年度の本格的な実施をめぐ
 て多くの課題とともに多くの夢があります。ボラン
 ティアとして多くの方々の参加とご協力をお願い
 いたします。

秩父の森の見方

(3) 神の住む森

埼玉大学工学部教授 佐々木 寧

神と仏

我々日本人には神と仏がある。町や村のどこに行ってもごく自然に神社とお寺があちこちに鎮座している。仏教は平安時代初期に日本に伝来したことがわかっているが、神道はもっと古く、縄文・弥生時代以前のアニミズムにまでさかのぼるのである。神は海や山、自然の中にあまねく存在し、そのシンボルは森なのである。

人里にある神社には必ずといっていいほど森が備わっている。しかし、神社、すなわち社やしろ(が建てられても、神の像、仏像のような偶像はない。森そのものが神のいる場所であり、神そのものなのである。

仏教国である熱帯タイでは、国内の隅々まで美しい寺院がある。タイには神社はないが、しかし、日本と同じように神は存在する。スピリット(精霊)と呼ばれ、小さな祠を祭っているのを見ることができ、その祠もやはり森の中に建てる。

神の住み家である森は神聖化され、意味なく切られることはなく、こんもりとした森となっている。

神社の森、社叢林あるいは鎮守の森と称される森である。そこにはおのずと古木、大木が多くある。より重要な点は、この神社の森は、その土地の自然の木々と草本種による郷土の森であることである。長い歴史の中で、平地や里山は、ここごとく人の手によって改変され、元の姿をほとんど留めていない。そんな中で、神社の森は、その土地の自然を伺い知る貴重な存在なのである。

寺林

それでは、もう一方の寺院では森はどう扱われているだろうか。検証してみよう。

寺院には、墳墓が備わっていることもあり、おのずと木の少ない、より開けた明るい空間が多い。町の中の寺院を見てみればその差は歴然としている。せいぜい大きな木が二三本あるか、低木類が散在す

るだけのことが多く、森はないのが普通だ。

仏教の発祥・発展地とされるインドやガンダーラの自然が、より乾燥地帯であったことも無縁ではなさそうだ。仏教につきものの植物で見ても、釈迦の台座にある蓮華(赤・青・黄・白色の蓮華)、背景にある竹、いずれも開放景観や疎林の植物である。釈迦が瞑想したインドボダイジュの木(イチヂク科)、この木、森にも生えるが森の主役ではなく、ウトサイダーである。

日本では時に豊かな森を備えた寺院を見ることが出来る。しかし、それも後世の神仏混合の影響と私は考えている。

日本庭園

西洋式庭園と対峙される日本庭園、日本の自然美と日本文化を具現するような美しさを持つ。この日本庭園こそ仏教の世界観そのものといえる。



ささき やすし
埼玉大学工学部建設工学科 教授。植物生態学。生物環境調査とその評価に関する研究や生態系に配慮した環境緑化に関する調査研究。環境先進国といわれるドイツでの環境政策の動向を調査され、その日本への応用の可能性を探るなどアクティブな環境問題に取り組まれています。

日本の代表的日本庭園を記憶にあるものを少しあげてみよう。苔寺で有名な西芳寺、寂光院、知恩院、三千院聚碧園。岩と砂の庭を持つ竜安寺、茶室とともに有名な金閣寺、銀閣寺、いずれも寺院であり、神社の名前は出てこない。日本庭園は寺院に不可欠なものなのである。日本庭園の基本的構図にも特徴的の共通性がある。庭の中に池が造られ、その手前には玉砂利や砂あるいは少し苔むした土の面となっている。池の後方には小山が形造られ、小低木類が植えられている。池のまわり、池の中、後方の小山には大小の岩石が多数配置されている。これらの主要構成物には、それぞれ意味があるのである。すなわち、池は海洋(この場合日本海を指すといわれている)、手前の玉砂利や砂は海岸を意味している。他の後方にある小山は山岳地を現わし、周囲に配置された大小の岩石はその厳しい岩山をイメージさせるものである。これらを総合

するとあるストーリーができてくる。「海(日本海)を越えた彼方の地(大陸)の険しい山中に仏の居おす聖地がある」孫悟空を従えた三蔵法師が厳しい山中の旅を続け、ガンダーラの経典を得る物語である。



庭園内の小山部分には、小さな祠が建てられている。この小山が、蓬来山、あるいは須弥山(シユミセン)で、仏のいる聖なる山なのである。実際にも蓬来山という名のつく山は、日本の各地に知られている。日本庭園こそまさに浄土曼荼羅絵を庭園構図の中に具現したものである。これが平安時代盛んに造られた浄土式庭園である。その代表的な庭が桂離宮である。そうしてみると、より抽象的でシンプルな竜安寺の庭園も、敷きつめられた砂には波の曲線文様が形造られているし、配置された岩石の意味も理解できよう。これら西芳寺、竜安寺の庭園は、鎌倉以降に発達した枯山水式庭園であり、より抽象的で、モディファイされたものである。

ここで森の話にあえて結びつけてみると、こうした日本庭園の中に、通常大きな大木を使うことはない。庭は適度に刈り込まれた低木や中低木で構成されている。周囲の森や山並みを、借景」として利用することはあるが、少なくとももっそうとした森をイメージしたものではない。

神社の森

神社の森の話に再び戻ろう。何百年も経ったような大木が立ち並ぶもっそうとした暗いほどの森。神社の森が、寺院とは全く異なるものだといえることが見えてきたと思う。

伊勢神宮の森、出雲大社の森、身近なところでは鎌倉八幡宮、日光東照宮の森、いずれも境内林(宮城林)と呼ばれる深い森を備えた山があるのが特徴である。伊勢神宮では約5500ヘクタールの面積を有する。

神社では20年に一度、遷宮を行う。社を別場所に新設、移し替える儀式である。この新社建設の要となるのが神木の切り出しである。諏訪大社の御柱(おんばしら)祭がこれにあたる。豊穣と再生の儀式である。

日本の森

1980年代、我々は全国の植生(森の構成)を調査する機会があった。日本の自然の森がどのように構成されているかを知るためである。しかし、明治以来の全国的な林野伐採で、日本の自然をつかがい知る自然の森は、瀕死の状態にあった。先進国中トップクラスの国土の森林率66%という数値も、そのほとんどはスギ、ヒノキの人工林であり、

日本の自然の豊かさを示す数字ではない。

林は約40%、その先はこの数字を使うかによって異

とくに長い年月をかけて、田畑や雑木林として利用されてきた里や里山では、自然の森は壊滅的で山針葉樹林を含めても(は)10%にも満たない。

あった。こうした状況の中で重要な手がかりとなった。環境庁は同時期「緑の国勢調査」の一環で、特記の森である。どんな田舎町にも神社は存在すべき重要な植生「特定植物群落」の調査を行った。時に山の頂に、小高い張り出し尾根の上に神いる。この時、選定された全国約5000件の内、森社が設けられ、時にその森は社をぐるりと囲むだけ林として挙げられた2454ヶ所の中の26.7%がの小さなものである例も多い。しかし、そこに生育する植物は、まわりの雑木林や人工林とは全く異なるものであった。人里の中にある、自然の小宇宙「ミクロコスモス的な存在なのである。」

環境庁は1978年から全国の「緑の国勢調査」を実施した。各都道府県別に地元の研究者が調査に我々に荘厳さと厳肅な気持ちを抱かせるのである。面積があるのかという数字もでてきた。それによると、日本の森林率、人工林を除いた雑木林、自然

あり、神の住む森そのものである。大小の木々や草がうっそうと繁り、清廉な水を生み出す森は、常

に駆けずり回った。その結果どんな森が、どのくらいいる。



上：ブナ 下：ミズナラの大樹
どちらも和名倉山仁田小屋尾根

「森は海の恋人」 畠山重篤氏の講演を聞いて

辻 秀幸



つじひでゆき
百年の森会員
登山家・作家
岩と雪の多くの
登攀体験から
独自の山岳
小説を拓く。

畠山氏の口からとつとつと言葉が流れる。「森は海の恋人」といつフレーズに出遭って正直、なんだなんだそれって、エロロジー運動の美辞麗句、自己陶醉じゃないかと氏のはなしを斜めから聞いていた。

カキ漁師の経歴の氏のさわやかな論理が展開されていく。

「カツオが1kgになるためにイワシ10kgを食べそのイワシは100kgの動物プランクトンを食べそれは1000kgの植物プランクトンを食べます……フムフム納得。」

「では植物プランクトンはチッ素という養分で育ち、チッ素は海の中で硝酸塩となって溶けていてこれをチッ素に還元するには鉄分が必要で、まず先に鉄分を体内に入れておかねばならないそうです……フムフムだんだん難しくなってきた。」

「この重要なはたらきをする鉄分は落葉樹林ミズキ・ミズナラ・ブナ等を水源にする川がほとんど供給してくれるのです……フムフム木のはなしになつてきた。」

畠山重篤さん
「だから上流にゆたかな森のある川が流れ込む湾はプランクトンの量が多く、海の植物連

鎖を盛んにつながしてそれを餌にする魚介類が豊富になることが判つてきました……フムフムなるほど目からうろこ。」

さて、畠山氏の住む宮城県の気仙沼湾はお隣りの岩手県の室根山(895m)を水源に大川で繋がっています。森の大切さを理解した氏は漁師のみなさんに働きかけ、ともに大漁旗をおしたてて室根山麓の植林に励みます。

なんと海の漁師が山へ上がつて木を植える驚き。そして、遠眼の効く漁師の勳で『海を育てるためにまず森づくり』の運動を誰にでもアピールされるためにスローガン作りを考えます。幸運にも地元の人歌人の熊谷龍子さんの協力で、「森は海の恋人」なる言葉を与えられます。

遙かな緑の山を青い海から恋い慕つとは美しい景観が目に見えませんか。

それから植林のときははためく大漁旗に混じつて、この「森は海の恋人」の垂幕もへんぼんとひるがえつていたとのことでした。まことに、漁師さんたちの山の中での活躍たるや面目躍如といつてころです。

さて私たちも畠山氏の講演を聞く以前から秩父の盟主ともいえる和名倉山へ、大陽寺へ、そして中津川山麓へ落葉広葉樹を植えてきました。これが

ら腐葉土の養分は秩父から埼玉県を貫流する荒川によって、東京湾へ運ばれていくことでしょうか。もちろん、東京の都心を通る荒川は護岸や堤で加工され宮城県の大川ほどの自然力をたくわえてはいないとしても。

東京湾にはこの他にも数本の河川が流れ込み、畠山氏の本によれば千葉側の木更津から富津にかけてカキの養殖帯があるとのことですから、ええ筆者の私も若い頃スキューバダイビングで神奈川県側の猿島の海底でカキの殻をはがして袋一杯収穫したことがあります。こんな具合ですから東京湾のカキもあちこちの海底で静かに群生していることのようにです。

私たちの運動の秩父の森づくりが荒川を伝わって東京湾をいくらかきれいにしていると思つて、楽しくなつてくるではありませんか。

今夜は気仙沼産のカキを求め、森づくりが海を育てることを教えてくれた畠山氏に乾杯。秩父の源流にブナをはじめ広葉樹を植える私たちの、百年の森づくりの運動に乾杯。(ときは九月、September カキのつまじRの付く月です)

参考図書

「漁師さんの森づくり」(森は海の恋人)

畠山重篤著 講談社 一〇〇〇円

建つや建たざるや

「楽天家の棟梁と心配性の弟子、

そして優秀な先生と暢気な観客達が織り成す植林小屋」

わたしは植林小屋である。いまだ産声を上げていないが、親達はわたしの名を「仁田小屋」と名づけたがっているようだ。姿形は丸太小屋、親達は気取ってログハウスと呼んでいる。ほとんどが今年の春に伐られた地元大滝村産の五〇年生位の杉で、六月に売り飛ばされ、七月に秩父市影森の東大演習林で製材され、皮むきされた。製材に五日、皮むきに三日くらいかかったと聞く。ご苦労なうた。

八月中に大滝村の廃校になつた光岩小学校で加工・仮組みされ、九月にへりで移送・本組み・屋根掛けされて、産声を上げる予定になっているそう、寒くならないうちにと我ながら祈っている。

八月二日に仮基礎が造られた。わたしは産まれた時が一番重く、成長するにつれだんだん軽くなるのに、随分と細かい仮基礎なので驚いた。弟子の心配をよそに、棟梁は「平気へいき」と気に留める風もない。これから毎週末、「ここでの作業が繰り返されて、だんだんわたしの姿形が明らかになる、楽しみでもあり、心配でもある。

八月三日からログ材の積み上げが始まった。八月中に造るとなると一日に最低二段は積まれる筈だが、この日の結果は一段がやっと。心配性の弟子の進言に棟梁は「百年の森の会員だつて、三・四回来ればそのうち慣れてくるからピッチが上がるよ」と馬耳東風。

八月九〜十日は台風にたたられ、わたしの段数は合計二段。弟子の心配性はますます肥大していく。棟梁の樂觀性は揺るぎもしい。

お盆の八月十六日〜十七日は会員が多数集まりピッチが早まるかに見えた。百名山のうち東北の五山を一挙にやつてきた棟梁は疲れも見せず「やってきて」ニコニコしている。先生役の宮原さん、市川さんも駆けつけて加工が始まった。先生の手際は実に見事で、身を削られる私自身が快感を覚えるという、何とも不思議な体験をしてみました。しかし、棟梁と百年の森の会員との挨拶は「初めまして」で始まるものが大半で、弟子はログの構造から、なぜ丸太がスカーフとノッチによって隙間無く積まれるかの説明に忙殺される。弟子はそんな彼らを「暢気な観客」と呼ぶことにしたよ、とわたしに呟いた。暢気な観客が観客である間は問題がなかった。彼らが梃子になったときは最良に機能した。しかし、彼らが職人になろうとした瞬間からわたしは偏頭痛に悩まされ始めた。でも新前から腕の良い職人はいない。わたしは我慢に我慢を重ねて彼らがそれなりの職人になるのを待つしかない。お盆が終わって段数は五段途中、弟子の心配性は地球規模に発達し、棟梁の樂觀性は窺い知れない。

八月二三日〜二四日もそれなりの人数が集まった。そして、初めましての挨拶が繰り返され、わたしは鬱病に罹り



執筆：仁田小屋(仮称)



清書：中川芳和(なががわよしかず) S24年埼玉生まれ、秩父市在住。コンピュータソフト開発会社経営。秩父の山と川に精通。



始める。今年は記録的な冷夏で雨にたたられる日が多かったが、今日は猛暑。そして猛暑は雷と強烈な夕立で終わり、校庭がプールになった中で建つわたしは七段途中、弟子の心配性は宇宙規模にまで膨らみ、棟梁へと触手を伸ばす。植林地の下草刈り帰路に視察し、危機感を持った会長から発破を掛けられた棟梁は、先生達への働きを強めた。泣き落としが、政治力か、金力か、わたしは知らない。

八月三〇日、三十一日、それなりに背の伸びたわたしを見て、棟梁は十一段以上を載せる仮基礎をもうひとつ造る事を決断。先生達の技の冴えを肌を感じながらまどろんでいたわたしは、八段途中と十一段目の一卵性双生児に変身したが、八月中には完成しないことが確定する。

九月になると弟子達は平日も作業に汗を流すが、二・三人では一日で数本の丸太を積むのがやっと。丸太を回すのにも手間取る姿を見ながら、わたしは笑いが噴き出すのを堪え続けた。

九月六日、七日、先生達の技がフルに機能し始める。四台のチェーンソーが同時に唸りを上げ、あつという間に十二



段目まで完成し、下段部が解体されていく。弟子達の平日の作業で、わたしは乾燥のため立て掛けられた丸太の束と、十三段目の二卵性双生児に変身した。

九月十三日、十五日、先生達と棟梁のチェーンソーが間断無く唸り続ける。弟子達と「暢気な観客」からのんぎさが消し飛んだ会員は槌子に徹して作業を手伝う。梁が渡

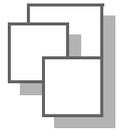
され、軒桁が載り、わたしは刻々と背を伸ばし続けた。三日連続の作業の後、九月十五日光岩小学校の背後の山に日が沈む頃、二二段目となる最上段に桁が載り、わたしの仮組みは十段目と十一段目を繋ぐノッチを残して完成した。

これから上段部が解体され乾燥される手筈のようだ。梱包され移送に備えてヘリポートへ運ばれる。ヘリの飛ぶ日の天気は如何だろうか、日が短くなる十月の本組みは巧いのか。弟子の心配性に晒され続けて感染してしまつたわたしは今、光岩小学校の校庭で秋の様相を帯びた夕陽に身を晒しながら独り呟いている。

でも、先生達は本組みまでの指導を約束してくれたし、棟梁の樂觀性も息を吹き返したようだ。きょうと弟子の心配性もこの校庭位までは小さくなつただろうし、会員達にも半人前の職人になつた奴もいるので、時々初めましての挨拶を聞くのも一興だ。

さて、建つや建たざるや、次の作業予定日まで午睡でもして待つとするか。





大陽寺下草刈に参加して

会員 狩野一子

夏真っ盛り、炎天下での作業を覚悟しての参加でしたが、幸せなことに絶好の作業日よりでした。

稲刈りに使う短い柄の鎌しか知らなかった私は、金剛杖のような柄のついた鎌にびっくり。腰をかがめ、草の中に顔を突っ込んで、草刈する姿を想像し、『しんどい作業だな、でも一度体験してみよう、森づくりのためには必要なことなのだ』と、思っただけで来ました。ところが長柄の鎌を使うと私でもけっこう楽に作業でき、一箇所に立つたまま、広範囲の草を刈ることができるので、感心してしまいました。



急斜面でのなれない作業に汗を流す

赤いしるしがついた木がぼつぼつと見えまして、桜の木が折れていて、大丈夫かな。ブナはさすがにしっかり根付いているようだ。コナラはまだ小さいけど元気そう。でもウルシ、タラ、タケニグサ、サンショウなどその他の植物の勢いに負けそうです。さあ、作業開始。

我々が植えた苗木より大きなタケニグサ、これは躊躇することなくバツバツと刈り取りました。しかしタラの木、サンショウは料理に使えると思っとな鎌を持つ手が止まってしまいました。これも思い切って刈り取りました。

赤い印が付いた大事な幼樹を傷つけないように最初は慎重に、やっていたましたが、だんだん大胆にガサツガサツとやれるようになりました。貴重な体験をしたというだけで終わることなく、これからは森づくりにかかわっていききたいと思っています。

また、包丁もつまみ研げないのに鎌の研ぎ方を、

教えていただき、ヘルメットと地下足袋の似合うおばさんになりそうです。



下草刈り作業の後大鎌を砥石で研ぐ

大陽寺植林地に見られた植物

- 単子葉類
 - イネ科
 - 離弁花類
 - アケビ科
 - アブラナ科
 - ウコギ科
 - ウルシ科
 - カバノキ科
 - クワ科
 - ケシ科
 - スミレ科
 - センリョウ科
 - タデ科
 - ツユクサ科
 - バラ科
 - マメ科
 - ミカン科
 - モクレン科
 - ヤマグルマ科
 - 合弁花類
 - アカネ科
 - キキョウ科
 - キク科
 - クマツヅラ科
 - サクラソウ科
 - シソ科
 - ナス科
- スズタケ、チチミザサ
- ミツバアケビ
イヌナズナ
タラノキ
ヌルデ
ツノハシバミ
ヤマグワ
タケニグサ
タチツボスミレ
フタリシズカ
ネバリタデ
ツユクサ
クサイチゴ、ニガイチゴ、モミジイチゴ、エビガライチゴ、クマイチゴ、ヘビイチゴ、ヤマブキ、クズ
サンショウ
ホオノキ
フサザクラ
- ヘクソカズラ
ホタルブクロ
ヒメジヨオン、ヒメムカシヨモギ
クサギ
オカトラノオ
カワミドリ
マルハノホロシ



まとめ：市川嘉一

大滝村エコツーリズムの可能性

東京大学大学院 森林利用学研究室 貝瀬朋子

エコツーリズムとは、今までのマスツーリズムによる弊害への反省から出てきた新しい観光概念です。その特徴としては、地域固有の資源を活かし、適切な管理に基づく保護保全を図りながら、地域経済への波及効果を狙う観光のことを言います^{*1}。エコツーリズムはオーストラリアやコスタリカ、国内では屋久島や白神山と特異な自然の残る地域が有名ですが^{*2}、そのような特別な環境でなくとも日常生活の中に残る文化・伝統が資源となる可能性を秘めています^{*3}。

埼玉県最西部に位置する人口1500人の大滝村では、持続的産業の一つとしてエコツーリズム(エコツアー)が考えられてきました^{*4}。私の研究は、大滝村の固有資源の有効的利用方法をエコツアーコースとして提案するものであり、提案されたコースの性格を表現できるような評価項目と値の設定を最終目標としています。方法としてはまずコース提案のために固有資源を調べ、次に評価値を出すための試験的エコツアーを実施します。参加された方の意見の回収を目的とした今回の試験的エコツアー(第二回：平成15年6月7・8日実施)では、まずガイドの確保が大きな問題でした。ガイドの質がツアーの満足度に大きく影響す

るのは、いくつかの文献で指摘され、今回のアンケート結果からも明らかにになりました。地元在住でガイドが可能な人

の登録や研修を行い、資源の活用を積極的に図っていくことがエコツアーの大切な要素になっています。参加者の意見の中には、一ツアー二〇人から五〇人を受入れられないかという提案もありましたが、安易に量を確保しようとすることは是非については検討が必要です。ツアー参加者の理解を深めていただくために、事前学習が検討されてもよいのではないかと思います。今回は参加者の身体的データ(脈拍数)を計測しながら、ガイド^{*5}の適切な判断の下で安全且つ健康的なツアーが実施されました。今後更に解析を行い、脈拍数と路面状況との基本的な関係を導き出し、効果的資源利用のための基盤整備を検討していきたいと思えます。今回得られたデータは、参加者の健康にも自然環境にも配慮された観光として、エコツアーを提案していくための注目すべきデータと言えるのではないかと思います。

最後に、この研究を進めるにあたって、村の将来を真剣に考える村内外の大変多くの方々にご支援・ご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

参考・引用文献

*1 日本エコツーリズム協会 <http://ecotourism.gr.jp/index>

htm

*2 小林寛子(2002)『エコツーリズムってなに?』河合書房新社

*3 特集島のエコツーリズム(1999)『JKA No.179 Vol.45-2 日本離島センター』

*4 仁多見俊夫(2001)『エコツーリズムと精密林業による森林資源の高度利用地域と大学演習林の連携』山林1402

*5 今回のガイドには、中津川在住の林業家・山中一二氏と山中良平氏のお二人にご協力いただきました。



滝の由来を参加者に説明する地元中津川の林業家の山中一二氏

「第二回試験的エコツアーのしおり」より

…大滝村はかつて林業と鉱業で栄えた村でした。その両方の産業が行われていた地域が中津川地域です。道路が整備される以前は、下流の栃本や強石といった秩父よりの地域との交流より群馬県、長野県・山梨県との交流が盛んだった場所です。大滝村の中でも特異な文化を残しています。森林政策を行う谷は、かつて林業が盛んな地域で、道の整備されていなかっただけで、昭和初期までは山で伐った木は川に集められ、川の流れを利用して下流へ出していました(水運)。この

際、川に堰をつくって水を溜め、勢いをつけて流すやり方(鉄砲出し)もあり、その跡がこの谷にも残っています。



「緑のダム」をつくる

長野県塩尻市下西条区の試み



緑のダム推進会議

代表 荒川 正

私たちの塩尻市下西条区は、個数約百七十戸の果樹、稲作を中心とする農村地帯です。区の南部に山林があり、凡そ六百五十ヘクタール、人工林約三百ヘクタール)の面積で、長野県の林業政策の中で、唐松、松を中心とする針葉樹が大切にされて来ました。

一方、所有者の高齢化やサラリーマン化で山林が放置され、加えて戦争で荒れた山間を流れる矢沢川は昭和五十七〜五十八年に氾濫し今も区民の記憶に残っています。

こうした中で、改めて森林整備の大切さを認識し、従来の針葉樹重視の林業から、自然環境を重視した広葉樹を重視し大切にしたい針広混交林」に転換すべきであるとの考えに立って、平成十三年六月十九日、下西条に緑のダムを造ろう」との宣

言をしました。

「緑のダム」は田中知事が使った言葉ですが、具体的に針広混交林に転換する運動を始めたのは、私たち下西条が最初でした。

同年九月には、「緑のダム」の必要性を区民に訴え、間伐関係補助制度」の説明会を開き、多少の個人負担があっても山林整備をしようとの意志統一をはかり、賛同者を募ることにした。

こうした中で、私たちに思いつかない追い風が吹きました。それは十四年度から新規事業となつた、公益森林機能増進パイロット事業」です。いくつかの条件はありますが、国、県、市、が予算措置

をし、個人負担は原則なし、というものです。

十四年三月一日には説明会を開き二十四名の関係者が出席、三月二十三日には、区民対象の森林整備(間伐)講習会を開き理解を求めました。

その結果、第一事業実施希望者は二十六名八十四ヘクタールとなり、十四年度には七名十七ヘクタールの整備が完了しました。

また、私たちは本事業を進めるにあたり、特に針広混交林について、認識を新たにするため、「多様な森林現地研修会」と銘うち、県内先進地大町市、明科町など)の研修を実施すると共に、十四年度に実施した森林での説明会、研修会を開き理解



間伐によって自然植生の回復をめざす下西条区の皆さん



地区で取り組まれている研修会

を深めて来ました。

さらに平成十五年度のパイロット事業では十七名、三十八ヘクタールの整備が予定されており、併せてこの事業の相乗効果で、当区内の保安林整備も六ヘクタールが実施されることになっていきます。

さらに、この施業に下西条区民自らが携わるため、現在六名が技能者として、事業に参加しており、今後、「きこり講座」「伐木造林講習」などを実施し、技術習得をめざしています。

私たちは、こつとした事業を通し区民が山林に関心を持ち、自然や山を愛する心をはぐくみ、子供や孫たちにかけてやがえない、緑の財産を残してゆきたいと考えております。

新しい森づくりの試みが各地で行われています。今号では、緑のダムとしての森林管理のあり方を進めている長野県塩尻市の「緑のダム推進会議」代表荒川正氏から原稿を寄せていただきました。森林の価値の見直しから新たな森づくりへのこの試みは、塩尻市下西条区の地区の人々の手によって進められています。下西条区は諏訪・岡谷市から塩尻市に向かう塩嶺峠の北側に位置し、カラマツやアカマツを中心に多くの針葉樹林があります。かつて長野県の中信から南信にかけては、木材増産の林業施策の中でカラマツの植林が部落ちるのみで積極的に行われてきました。手入れの不足から山の荒廃が言われていますが、それらの森林に対して、地区の人々自身の手によるこの試みは、大きな意義を持つものです。

取材＝田島



秋

十月、木々の葉はいつせいに色づきはじめ秩父の山々は美しく彩られます。そんな木の葉を使って本のしおりやはがきを作ってみませんか。山道で一枚一枚拾いながら、木によって様々に異なる葉の形や色を楽しんでみてはいかがでしょうか。

葉の採集に必要なもの

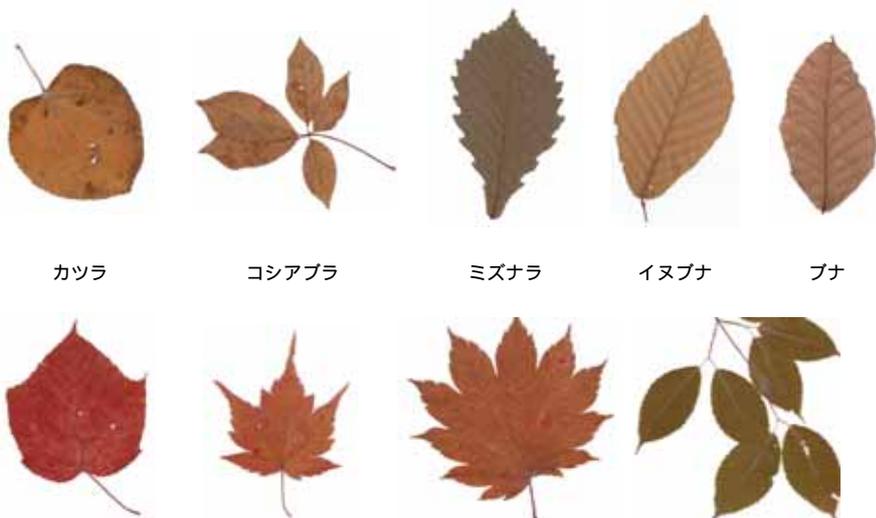
- ・古雑誌や新聞をノート状に束ねたもの
- ・植物図鑑
- ・しおりを作るときに必要なもの
- ・少し厚手の色紙
- ・押し花用の熱圧着シート
(手芸店にあります)
- ・アイロン
- ・つくり方

葉を拾いながら一枚ずつ採取用ノートにはぎんでいきます。葉をあまり乾燥させないのがコツです。

家に持ち帰ったら、押し花のように新聞紙や

雑誌に挟んで重石などで押さえます。最初は水分が出てぬれますから二三度押さえ紙を替えま

す。
一月ほどで薄くきれいな葉に仕上がります。厚手の色紙やはがきに葉を置き、熱圧着シートを上からかぶせ、アイロンで押さえると出来上がりです。雲流紙の薄い膜を通して木の葉の色や形を楽しむことができます。



秩父を代表するカエデの仲間たち
ウリハダカエデ コミネカエデ ハウチワカエデ チドリノキ

新しい森づくりの拠点

造林小屋の

完成を記念して

和名倉山登山を行います



副会長 高岡正彦

新仁田小屋(仮称)の完成記念として和名倉山の登山を10月25日、26日行います。天然林としての姿を多くとどめている和名倉山・仁田小屋尾根ルートを観察するとともに、第4回の植林地の調査を行います。

仁田小屋沢の脇に立つ小屋は、かつて和名倉山の森林作業にとって欠かすことのできない拠点でした。風田を二基そなえ、台所と寝室、トイレがあり、作業者は何ヶ月も泊り込んで作業にたずさわったと言われています。大根などの野菜を近くの陽の当たる尾根などで栽培し青物を補ったと言われています。交通手段の発達で、山に泊り込んで作業することはほとんどなくなり、仁田小屋も荒れるに任せる状態でしたが、秩父大滝村の中心を占

め、豊かな自然植生を残す和名倉山のこれからの森林管理にとって、仁田小屋の占める位置は、きわめて重要と考え、仁田小屋の改修に取り組みました。新仁田小屋は50年生のスギ丸太でくみ上げられた立派なものです。建設にあたっては、チェーンソーの使い方からロケの組み方まで指導くださった地元の指導者の方々、仮組みの場所を提供してくださった大滝村光岩小学校地区の皆様にあらためて感謝いたします。私たちは数ヶ月にわたり、スギ材の重さと格闘する貴重な体験をもつことができましたが、木材利用の大切さとありがたさを学習したように思います。その木材を生みだしてきた山の人々の苦勞と山の恵みの大きさが少し理解できたようです。新仁田小屋は今後、森林観察や生態調査、植林作業の拠点として広く活用していきたいと思えます。そして何よりも私たちのような市民が豊かな自然と接するときのよりどころとして、多くの皆様に活用していただきたいと考えています。大きな山容を誇る和名倉山の中腹に生まれた小さな小屋ですが、これからの森林管理・森づくりのあり方を多くの方々と共に追究していく場所になりたいと思えます。

さて、今回の記念登山は故池田良二君の追悼登山でもあります。彼は、「百年の森づくりの会」の発起人の一人であり、1997年5月に彼と内藤会

長と私の三人で和名倉山を偵察し、この活動がはじまりました。藪で覆われた仁田小屋尾根に作業道を切り開くとき、いつも先頭にいたのが池田良二君でした。2000年に肺がんを冒されているのが分かり、以後三年間の闘病生活を余儀なくされ、持ち前の「頑張り」で病魔と戦い続けましたが、今年の6月7日帰らぬ人となりました。彼の山への熱き願いによろやく応えられるようになったこと、新しい仁田小屋の完成と「百年の森づくりの会」の間が順調に増え、その活動も充実してきたことを彼に報告したいと思えます。

参加ご希望の方は、10月14日(火)までに、会事務局宛に、電話・ファクシミリ・Eメールにてご連絡ください。参加者には後日詳細をご案内します。

スケジュール予定

10月25日(土) 10時 三峰口集合

14時 新仁田小屋到着

16時 落成式

10月26日(日) 6時 仁田小屋出発

(イヌブナ平コース・頂上コース⇨健脚向の二班)

14時 新仁田小屋戻り

15時 下山

16時 三峰口着

持ち物・装備

事務局で用意するもの/テント・朝夕食1回・

昼食1回・飲み物・食器

参加者の個人装備/寝袋・着替え・防寒着・

雨具上下・スパッツ・帽子・軍手・懐中電灯・

昼食初日1回分

新築ログハウスの名前を付けてください

このたび十月に完成する造林小屋の名称を皆様から募集しています。

この小屋は、地元秩父のスギ材を使い、多くの皆様の協力によってつくられました。和名倉山仁田小屋尾根の中腹に建つログハウスからは、南に雲取山が見え、うしろには仁田小屋沢の清流がさわやかな音をあげて流れています。



植林活動を通じて秩父大滝に深く心よせている私たち百年の森づくりの会は、これからの森づくりの拠り所として、かつての山の賑わいの証でもった仁田小屋を手造りで改修しましたが、名前がまだありません。

竣工に際し、これからの新しい森づくりの拠点にふさわしい名前を募集しています。どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先 百年の森づくりの会事務局
締切り 2003年11月末日

第十二回 百年の森づくりワーク報告

2003年5月23日～25日 参加17名

3回目のブナ植林

昨年の秋に地拵えをした和名倉山仁田小屋尾根の標高1450m地点と1500m地点の二か所に、6年生のブナの苗を25本を植林しました。

植栽されたばかりの苗は、水をくみ上げる力が弱くなるため、植林の時期は、水が必要とする若葉が出る開葉前が良いとされています。植林地にうまく根付かせるためには、根切り根回しを施し、再び細根が伸び出したところ掘り出して根巻きし植林する必要がありますが、なかなかその時期に十分な時間をとっての植林活動が出来ません。そこでせめて水が十分与えられる梅雨前に植林することになっています。

第1回植林には、樹高2mの8年生のブナの苗（東京大学秩父演習林影森園場の秩父産のブナ）を用意しました。大きな根とそれが抱える土をそっくり根巻きをしましたので、1本約30kgになってしまい運ぶのに大変苦労しました。第2回からは、小ぶりのブナを植えるようにしています。小ぶりのものの方が活着もいようです。第1回植林の苗は13本中8本、第2回植林の苗は13本全部根付

いています。今回も東京大学秩父演習林影森園場から、秩父産のブナの苗の提供を受けました。今後は、和名倉山の自生種のミズナラ、イヌブナなどの植林を検討したいと考えています。

入会申込書できました

百年の森づくりの会の入会申込書ができました。和名倉でのブナの植林や大陽寺の植林活動などこれまでの活動がひと目でわかるようにデザインされています。入会のお誘いにご利用ください。

会員募集しています。

年会費 個人会員 2000円
法人会員 10000円
郵便振替 0014000555239
銀行振込 百年の森づくりの会
埼玉りそな銀行南浦和支店
普通預金口座 No.3835666
百年の森づくりの会 会長 内藤勝久

平成15年度上期の活動報告

調査植林と「森づくりの夢を語る夕べ」

4月26日(土)～27日(日)に大滝村中津川向山県有林で調査植林が実施されました。当日は、37名の参加をいただき、630本の苗木を植栽しました。また、「森づくりの夢を語る夕べ」と題し、シンポジウムを開催し、埼玉大学工学部佐々木寧教授、同大学経済学部貝山道博教授、同大学工学部本間俊司助教授、埼玉県秩父農林振興センター小室正人所長にご講演をいただきました。会員からの活発な質疑もあり、成功裡に終了することができました。来年度から、本格的に植林・下草刈り作業を進めていきたいと考えています。(詳しくは、本会報2-3頁)

平成15年度第3回通常総会・記念講演会

5月11日(日)午後2時より大宮ソニックシティ4階市民ホールにおいて、通常総会を開催しました。平成14年度事業報告、収支決算および平成15年度事業計画、収支予算案について、原案とおりに承認いただき、その後、記念講演として、牡蠣の森を慕う会代表畠山重篤氏に、「森は海の恋人」と題して講演をいただきました。当日は、97名が参加し、懇親会も和気藹々のうちに終了することが出来ました。(感想と報告は、本会報7頁)

第12回百年の森ワーク

5月23日(金)～25日(日)に、第12回百年の森づくりワークを実施しました。当日は17名が参加し、第3回植林を実施、25本のブナ苗木を植樹しました。また、第1、2回の植林地の状況を観察してきました。(詳しくは、本会報15頁)

第1回「荒川源流森づくり体験」大陽寺下草刈り

7月27日(日)に去年300本植栽した、第1回「荒川源流森づくり体験」、大滝村大血川大陽寺植林地0.4haの下草刈りを実施しました。当日は、去年参加くださった方々を含め78名の参加をいただきました。(詳しくは、本会報11頁)

和名倉山仁田小屋改修工事作業

8月から9月にかけて、仁田小屋改修のための建設計画に着手しました。毎土・日にかけて、作業をしております。(詳しくは、本会報8-9頁「建つや建たざるや」)

平成15年度今後の活動について

和名倉山仁田小屋改修工事

10月の各土曜・日曜に仁田小屋改修工事作業を継続的に実施します。作業に協力いただける方は、右記事務局までご連絡ください。

第13回百年の森づくりワーク

10月24日(金)から26日(日)に、第13回百年の森づくりワークを実施します。

8月から10月にかけて、仁田小屋改修工事作業を行っております。今回は、新仁田小屋の完成式を行う予定です。また、和名倉山記念山行を開催したいと思います。

参加ご希望の方は10月14日(火)までに下記事務局宛に、電話、FAX、Eメールにてご連絡ください。

百年の森交流会

日時： 11月1日(土) 13:00～16:00

場所： 埼玉大学内 百年の森テラス
〒338-8570 さいたま市緑区下大久保255

交通：

JR京浜東北線 北浦和駅下車 国際興業バス(埼玉大学行)20分

JR埼京線 南与野駅下車 国際興業バス(埼玉大学行)10分

恒例の百年の森交流会を開催します。当日は、簡単な食事と飲み物を用意しておりますのでお気軽にご参加ください。皆様のご参加をお待ちしております。

【事務局 連絡先】

〒336-0015 さいたま市南区太田窪2034-1

百年の森づくりの会 会長 内藤 勝久

TEL 048-885-6697

FAX 048-882-0245

E-mail naitoh@saitama-j.or.jp

現会員(会員番号 氏名 住所)2002.3.16～2003.9.15入会分

481 杉原 精一 所沢市/482 岡本 義雄 さいたま市/483 熊谷 昌之 台東区/484 田島 三樹郎 東久留米市/485 菅井 善一 東久留米市/486 廣瀬 城児 世田谷区/487 三浦 起世光 調布市/488 松田 兼男 町田市/489 清水 重雄 小倉市/490 後藤 高志 杉並区/491 高山 徳久 武蔵野市/492 豊崎 就保 中野区/493 天野 泰孝 杉並区/494 渡辺 周一 新宿区/495 平田 良平 渋谷区/496 鈴木 靖 渋谷区/497 榎本 信行 世田谷区/498 高橋 一郎 さいたま市/499 宮崎 則行 さいたま市/500 磯崎 瑳登志 杉並区/501 磯 利二 武蔵野市/502 宇都宮 時彦 小平市/503 大原 裕 武蔵野市/504 小平 高義 国分寺市/505 諏訪 昌彦 狭山市/506 仲木 正 西東京市/507 中根 忠幸 青梅市/508 仁礼 均 三鷹市/509 堀内 正雄 武蔵野市/510 柳崎 正彦 府中市/511 矢部 勝二 西東京市/512 森田 次郎 岩槻市/513 甲賀 信郎 目黒区/514 川船 繁夫 世田谷区/515 伊藤 公義 小平市/516 山崎 行男 品川区/517 松原 弘志 大田区/518 川上 元宗 世田谷区/519 新村 満 横浜市/520 大湯 満之 目黒区/521 山本 厚子 世田谷区/522 井上一夫 世田谷区/523 前浜 剛 品川区/524 高桑 英夫 小平市/525 大越 治子 大田区/526 小川 欣之 松戸市/527 清水 恒治 杉並区/528 田中 宣哲 町田市/529 小林 喬 杉並区/530 遠藤 康昭 新宿区/531 佐藤 貴喜 東村山市/532 東 洋一 中野区/533 内沼 利三 東久留米市/534 檜皮 勝三 小平市/535 須藤 一彦 練馬区/536 鈴木 久男 新宿区/537 北村 高雄 中野区/538 伊藤 登美子 杉並区/539 伊藤 博 志木市/540 吉富 裕 調布市/541 大石 恵理子 三鷹市/542 安達 尚弘 印西市/543 高橋 久子 江戸川区/544 梶原 良平 千代田区/545 陳尾 友行 練馬区/546 大野 忠 和光市/547 加藤 悦男 練馬区/548 会田 二朗 北区/549 白井 千廣 板橋区/550 森尾 誠 八王子市/551 新井 芳雄 青梅市/552 伊藤 晃 立川市/553 入江 玄歌 日野市/554 榎本 和夫 あきる野市/555 菊池 三郎 日の出町/556 小池 克弘 立川市/557 小島 功 八王子市/558 篠澤 征四郎 八王子市/559 高野 真人 青梅市/560 高野 仁一郎 八王子市/561 野中 昭二 昭島市/562 野村 隆 青梅市/563 細谷 博司 福生市/564 木内 敬三 武蔵村山市/565 土屋 満幸 久喜市/566 市原 祐之 八王子市/567 杉本 憲一 新宿区/568 宮本 光男 練馬区/569 小池 清 秩父市/570 田村 友彦 春日部市/571 横尾 比呂子 川口市/572 大藪 邦嗣 杉並区/573 小井沼 敏光 千葉市/574 新井 孝之 皆野町/575 亀田 省三 川口市/576 森田 裕之 江戸川区/577 長谷川 巖 府中市/578 高島 章 台東区/579 五十嵐 忠夫 墨田区/580 井深 俊男 長瀬町/581 大島 一恵 長瀬町/582 大島 由子 長瀬町/583 中村 郁子 墨田区/584 林 稔子 長瀬町/585 林 弘之 長瀬町/586 長谷川 潤 渋谷区/587 岡田 之男 橘川市/588 石関 明彦 さいたま市/589 新井 富美男 川越市/590 新井 徳宝 さいたま市/591 小林 太多枝 大井町/592 水津 良策 越谷市/593 両宮 汎一 川越市/594 落合 義彦 所沢市/595 田澤 義彦 三郷市/596 北林 堅司 所沢市/597 根田 茂春 さいたま市/598 宮澤 敏子 長瀬町/599 宮澤 修 長瀬町/600 大澤 スミエ 長瀬町/601 大澤 文人 長瀬町/602 花塚 健 所沢市/603 倉島 正夫 幸手市/604 中村 昌董 鴻巣市/605 加藤 健義 狭山市/606 サージミヤワキ(株) 品川区/607 中俣 多美子 江東区/608 水野 淑男 さいたま市/609 中畝 靖雄 長瀬町/610 北堀 瀧三 秩父市/611 小林 正 長瀬町/612 渡辺 隆 長瀬町/613 中野 宏美 和光市/614 平賀 真司 さいたま市/615 中里 秀雄 長瀬町/616 福田 まさ 熊谷市/617 福田 範重 さいたま市/618 河野 スイ子 さいたま市/619 遠藤 輝子 さいたま市